

親子で学ぶ道徳講座

越前市岡本小学校

1 はじめに

小学校では平成30年度から「特別の教科道徳」が全面実施されたが、本校では、自ら感じ、考え、他者と対話しながら学びを深めていく道徳の授業づくりについて研究を行ってきた。その取組みの一つであり、今年度、県より指定を受け行ってきた道徳教育総合推進事業「親子で学ぶ道徳講座」について、以下に述べる。

2 取組みについて

6月 チェロの演奏者を招いての演奏会と意見交流会

国内外で活躍するチェリスト荒井結子氏を招き、演奏と講話を聞いた。道徳の指導内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」と関連させ、講座までに、道徳の教科書や心のノートを使って自分の得意なことや出来るようになりたいこと、将来の夢などについて考えさせた。講座は学校公開日とし、たくさんの保護者にも一緒に授業に参加してもらうことができた。講座終了後は、ワークシートに感想を書き、それをもとに家庭で話し合い、保護者のコメントを加えてもらった。夢の実現に向けて努力してきた体験を交えた話に感動した児童、保護者も多かった。



12月 車いすバスケットボール選手とのスポーツ体験と意見交流会

しあわせ元気国体で活躍し、東京2020パラリンピックを目指すアスリート2名を招き、低学年は車いすと卓球バレーの体験、高学年は車いすバスケットボールミニゲーム体験、その後、全員で意見交流会を行った。前回同様、学校公開日に実施し、地域への広報も行ったことで、保護者のみならずたくさんの地域の方が参加した。

体に障がいがあっても生き生きと車いすを操る選手との交流を通して障がい者スポーツへの理解を深め、夢を持ち少しずつ努力することの大切さを学んだ。



〈児童の感想〉

- ・ 今日の親子で学ぶ道徳講座をうけて、まず大きな夢を決めてそこから小さな目標を立てていくことを知りました。ぼくはまだ夢がしっかり決まっていはいないけど、ゆっくりあわてず決めていきたいなと思います。
- ・ 私の心に残ったことは、障がいがあってもスポーツができることです。それは障がいがあってもがんばろうという気持ちがあるからです。2人の選手は夢をかなえるためにがんばったと言っていました。私も夢をかなえるためにがんばりたいです。

〈保護者の感想〉

- ・ 間近で見るバスケットボール選手の迫力、そして障害を持ちながらも夢に向かって日々打ち込めることを持てる人はとても生き生きしていると感心しました。
- ・ 直接プロの選手と話の出来る機会を通して、目標に向かって目の前の課題を1つ1つクリアしていくことの大切さを学んだようです。やはりどの道でもプロの言葉は子供にとって強いですね。

3 終わりに

講師の先生の素晴らしい技術や話には強いメッセージがあり、参加者は憧れや尊敬の念を抱いたように感じる。ワークシートには家庭での親子の会話が伺える内容が多く記されていた。またその内容については「校長だより」に取り上げたことで、他者との意見の共有を図れたと考える。講座実施後の児童アンケートでは、難しいことに挑戦しようという質問への肯定的回答が増えたことは本講座の成果であると考えられる。

道徳教育は様々な道徳的価値を育て、夢や希望を持つ力を養っていくことである。今回の取組みは体験活動をどのように道徳の授業につなげていけばよいかを考えることができ、また「特別の教科道徳」について、保護者や地域に知ってもらうよい機会となった。